

## 【「ウミウ」ってどんな鳥？】

Q 1 : どの鳥がウミウなの？

Q 2 : ウミウの食べ物は？

Q 3 : ウミウの住みかは？

Q 4 : 「新鳥」(シントリ)とは？

Q 5 : ウミウの寿命は？

Q 6 : ウミウは群れで生きているの？一匹で生きているの？

A 1 :

世界にはおよそ40種の鵜が存在し、日本原産のものは4種である。長良川の鵜飼漁師が用いるのはウミウという、4種の中で最も大きく、台湾から極東ロシアの太平洋のみを原産とする種である。

(中央)

ウミウ

学名 : *Phalacrocorax capillatus*

ウミウは平均で全長85センチ(頭から尾まで)である。2歳頃までの幼鳥は茶色で、首と胸に白いまだら模様がある。3歳以上の成鳥は、わずかに緑の光沢を放っているが、黒一色である。また、目の下には、白い頬と小さな黄色の着色がある。ウミウはめったに鳴き声を発しないが、巣に近付くと、騒々しく、うがいをするような音を発する。野生では、ウミウは沿岸地帯の岩場(岸や崖の側面)に生息している。

(左)

チシマウガラス

学名 : *Phalacrocorax urile*

チシマウガラスはウミウより小さく、平均で全長75センチである。チシマウガラスの英語名(*red-faced cormorant*)は「赤い顔の鵜」を意味する。目の周囲に赤い皮膚でできた大きな着色があることから、この名前が付けられた。この部分は繁殖シーズンに最も鮮やかな色を放つ。羽は黒く、青緑あるいはすみれ色の光沢を有している。繁殖シーズンになると、雄雌どちらも、頭と首に羽毛のとさかが現れる。チシマウガラスは北海道沿岸の岩場に生息している。

(右上)

ヒメウ

学名 : *Phalacrocorax pelagicus*

ヒメウは平均で全長およそ73センチの、日本原産の鵜の中で最小の種である。ヒメウはチ

シマウガラスと区別し難い場合があるが、チシマウガラスと比べ、トサカが小さいのが特徴だ。顔にある赤色の着色は、繁殖シーズン以外では消失している。ヒメウの羽は黒一色で、青緑の玉虫色がかっている。チシマウガラスやウミウと同じく、ヒメウは岩場の海岸に生息する。これらの種が入り混じることもしくない。

(右下)

カワウ

学名 : *Phalacrocorax carbo hanedae*

カワウはウミウとほぼ同じ大きさで、その全長はおよそ82センチに達する。また、形と色合いもウミウに似ている。しかし、口角の下の肌がむき出しになった部分が丸みを帯びている。カワウとウミウの最も明確な違いは、生息地である。日本のカワウは岩場の海岸ではなく、内陸地にある湖や川の岸を好む。

A 2 : ウミウはあらゆる種類の魚を食べる。ウミウは水に潜る能力に優れており、獲物を追いかけて毎秒3～4メートル泳ぐことができる。ウミウは川において、鮎だけでなく、うなぎ、ハヤ、その他多くの淡水種を捕まえる。海では、イカナゴ、イワシ、カタクチイワシやホッケを捕まえるため、とても深く（およそ30メートル）まで潜る。

A 3 : ウミウは、ロシアの沿岸や、朝鮮半島、日本が原産である。日本では、ウミウは東北地方南部で冬を過ごし、その後、日本海の島々、三陸海岸沿い、北海道といった繁殖地を目指し、北へ移動する。この地図には、ウミウの繁殖地がオレンジ色で示されている。

A 4 : シントリ（新鳥）は鵜飼漁師が使う用語で、新たに届いた、野生で捕獲された幼鳥を指す。幼鳥は秋に茨城県で捕獲され、冬に鵜匠の家に送られる。新たに捕獲された鳥は、一般に2歳前後の年齢である（茶色と白の色合いが、この年齢であることを示す）。新しい鳥は、鵜匠のチームで本格的に働くようになる前に、2～3年の訓練を受ける。

A 5 : 野生では、ウミウは平均で7～8年生きる。しかし、漁のために飼育される鵜は、通例15～20年（場合により、およそ25～30年）生存する。そしてこの寿命のうちで、通常12～15年間を労働に費やす。

A 6 : 野生の鵜は群れで生活する。仲間とともに移住し、獲物を食べ、巣を作りながら、年長の鳥を見て真似する中で学んでいく。このように社会性と適応力に優れた野生の種は、漁において非常に優れた働きをする。新たに捕獲された鳥は、人と暮らす生活にも容易に順応し、他の鵜から仕事のやり方を学習するのである。